



今日のトピック 米国株式市場～PER17倍の壁を超えるための条件 景況感の改善と増益期待の高まりがカギ

ポイント1 S&P500は再び3,000ポイントへ 決算動向の見極めが必要

- 米国株式市場は、10月21日にS&P500種指数が3,006.72ポイントと、本年7月中旬以来の3,000ポイント台乗せとなりました。好調な滑り出しとなった7-9月期の決算発表や英国の合意なき欧州連合（EU）からの離脱が回避される見通しとなったことなどが背景です。

ポイント2 PER17倍の壁にぶつかる やや上値が重くなりつつある

- 株式市場は上値がやや重くなる可能性があります。今年のS&P500種指数と1株当たり予想株価収益率（PER）（12カ月先予想）の関係を確認すると、3,000ポイント前後は予想PERで概ね17倍程度で、この水準を上回ることがなかなかできません。予想PERの17倍台が壁となった局面として2015～2016年が指摘できます。17倍を上抜けしたのは2017年以降でした。

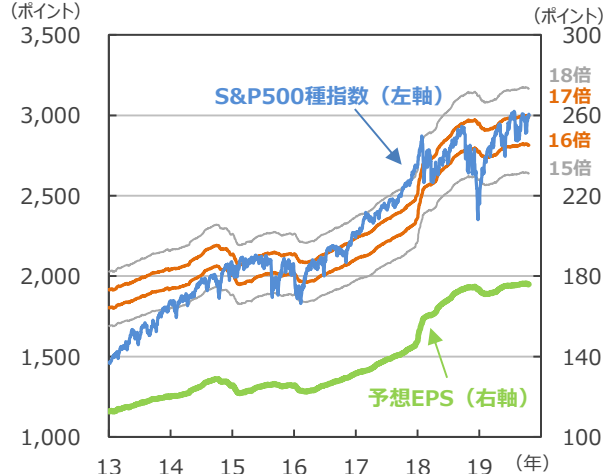
- 株価とEPSの成長率を見ると、株価は約半年程度、業績に先行してボトムを形成しています。2016年は1-3月期が利益成長のボトムとなり、2017年以降の利益拡大とともに株式市場は大幅な上昇となりました。2019年は7-9月期が業績のボトムとなる見通しで、株式市場はその後の利益回復を視野に入れ上昇していますが、株価が持続的に上昇するためにはさらなる利益成長が期待できるかが重要です。

今後の展開 景況感の改善と増益期待の高まりがカギ

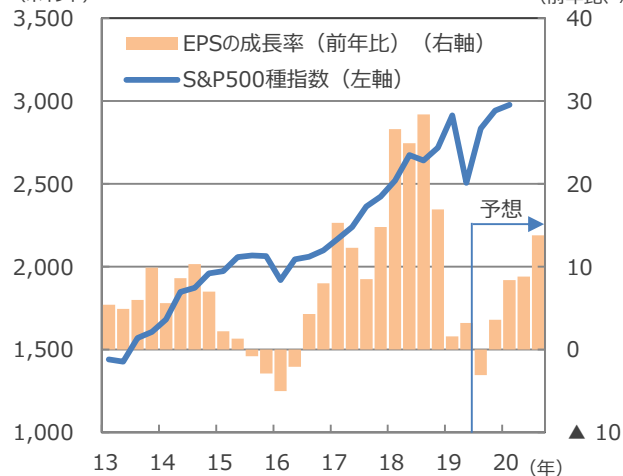
- 大きな懸念材料である米中貿易交渉は、完全合意は難しいにせよ、部分合意に目途が立ちつつあります。これまでの追加関税の影響から、もうしばらく景況感の悪化が続くと懸念されますが、年末近傍からはその悪影響が徐々に消え、景気回復の可能性が高まると期待されます。景況感の改善が見え始めれば、業績に対する増益期待も高まると考えられ、米国株式市場はPER17倍の壁を超えようと考えられます。

ここもチェック! 2019年10月16日 IMFの世界経済見通しは2019年が底 2020年に景気は持ち直しへ
2019年10月11日 米国企業業績の伸び率は7-9月期に大底を形成へ

【PERの倍率で試算したS&P500種指数】



【S&P500種指数とEPSの成長率】



■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。